資料1

本庄市における地域特性･交通の現状と利用状況の把握

～路線バスの利用状況～

平成24年10月5日

本庄市交通政策協議会事務局

目　次

地域特性･交通の現状と利用状況の把握

(1) 本庄市における人口分布等の概況 ･･････････････････････････････03
　1) 人口分布･･03
　2) 高齢化率･･04
　3) 現行バスによるカバー率の概略試算 ･･････････････････････････05

(2) 本庄市におけるパーソントリップ (移動実態)　･･････････････････06
　1) 市域内における移動の概況･ ･･････････････････････････････････06
　2) ゾーン間の移動の実態 ･･････････････････････････････････････09
　3) 駅端末交通手段の状況･･････････････････････････････････････16

(1) 本庄市における人口分布等の概況

1) 人口分布

- 人口分布は旧本庄市域に比較的多くみられる。

本庄市民：８１，８８９人（H22年国勢調査）

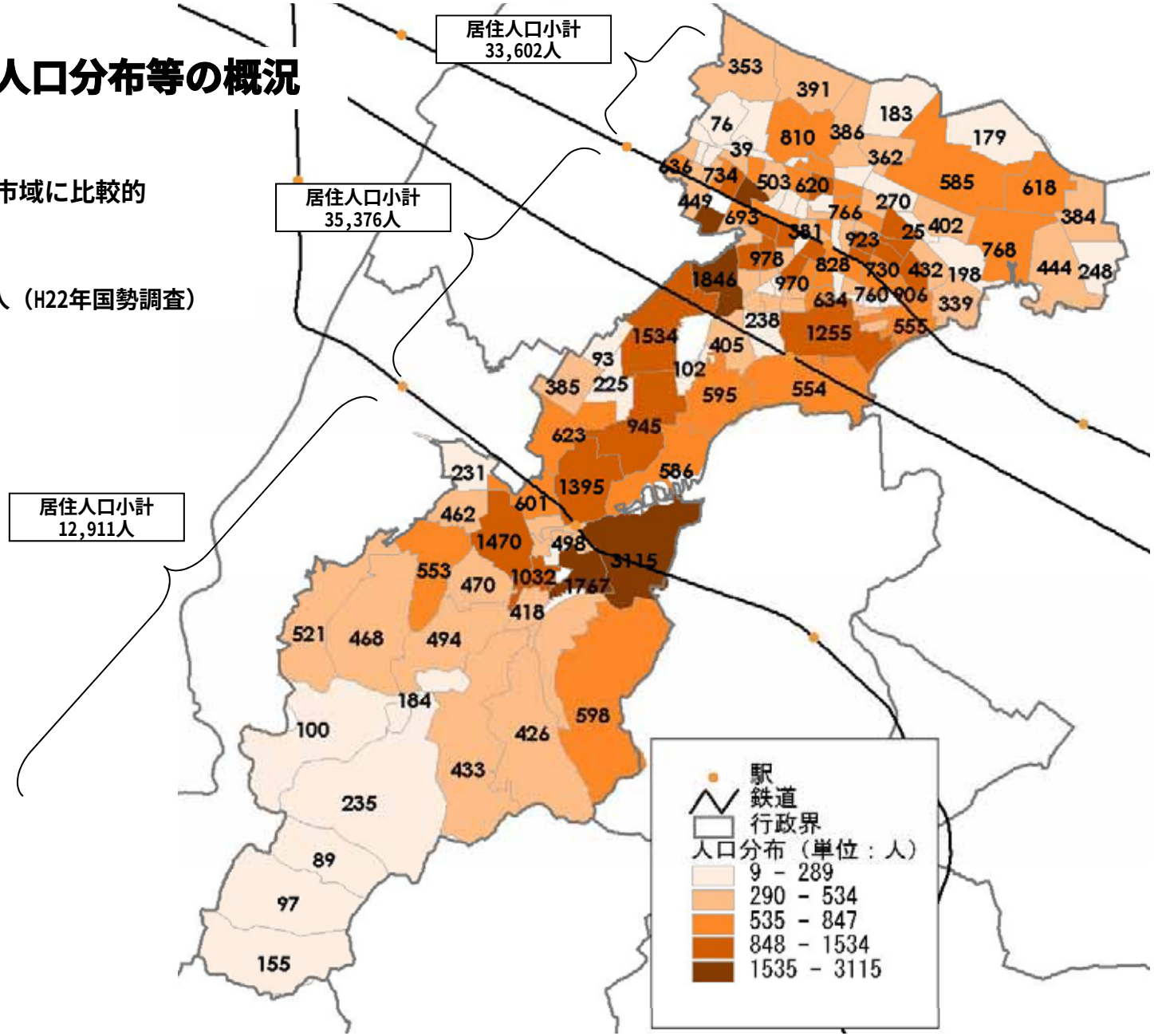
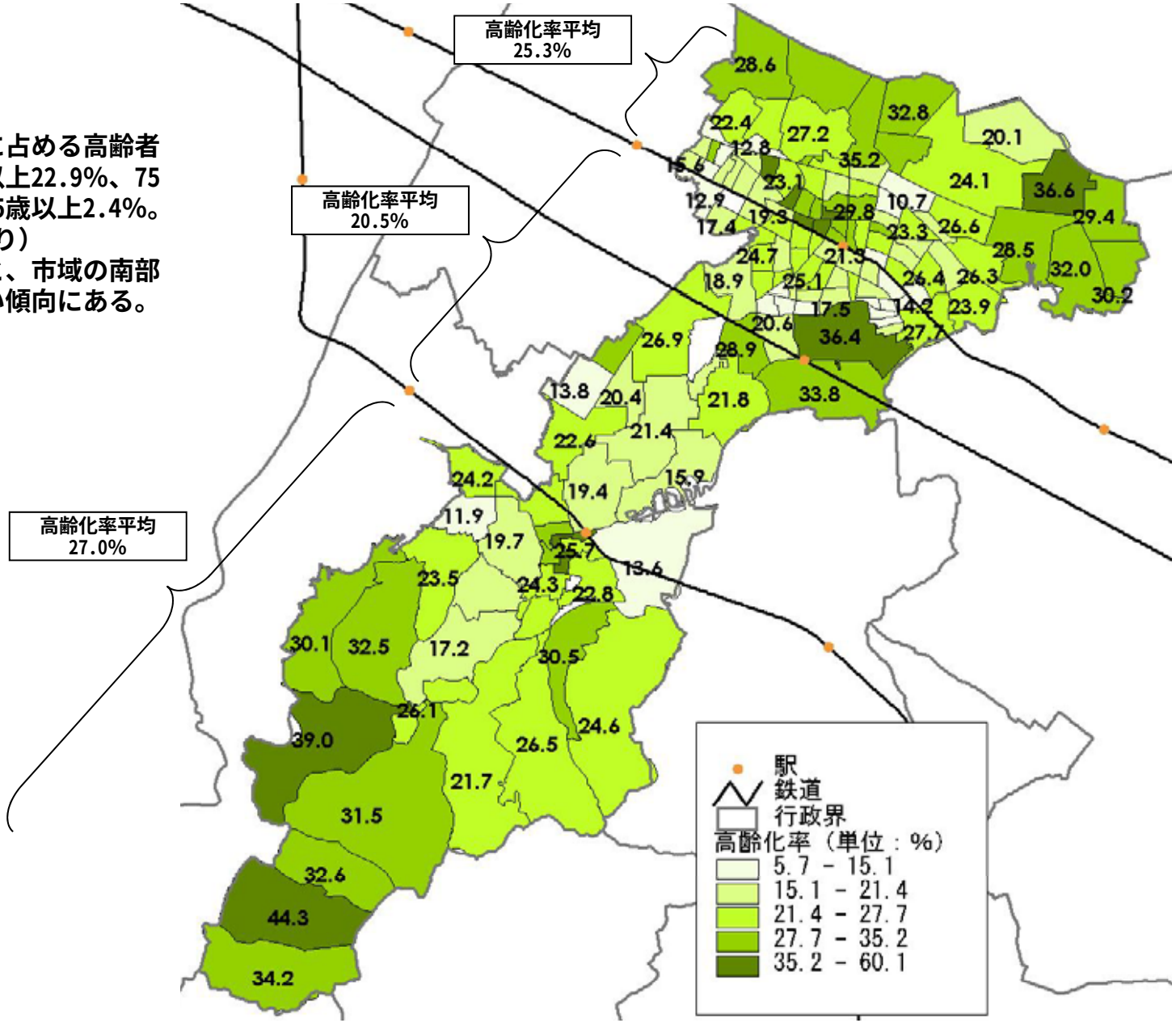


図　人口分布

※平成22年国勢調査より集計

2) 高齢化率

- 本庄市の全人口に占める高齢者の割合は、65歳以上22.9%、75歳以上11.0%、85歳以上2.4%。（H22国勢調査より）
- エリア別にみると、市域の南部で高齢化率が高い傾向にある。



※平成22年国勢調査より集計
※高齢化率（%）＝高齢者（65歳以上）人口÷総（小地域）人口×100

図　高齢化率

3) 現行バスによるカバー率の概略試算

- 現行のバス路線（路線バス・循環バス）による全バス停からのサービス圏を試算すると、市内居住者の73.3%（60,101人）をカバーするバス停配置となっている。

【路線別のカバー率集計】
本庄市民：８１，８８９人（H22年国勢調査）

○バス停１カバー人口：１８，２５７人
⇒全人口の２２．３%をカバー
○バス停２カバー人口：５８，０８３人
⇒全人口の７０．９%をカバー

※1：バス停の半径300m圏を町丁目別人口から面積按分（数量に比例して割振り）して算定
※2：「バス停１」は、24本/日以上運行系統（図中の赤線表示）
※3：「バス停２」は、上記以外（図中の青線表示）

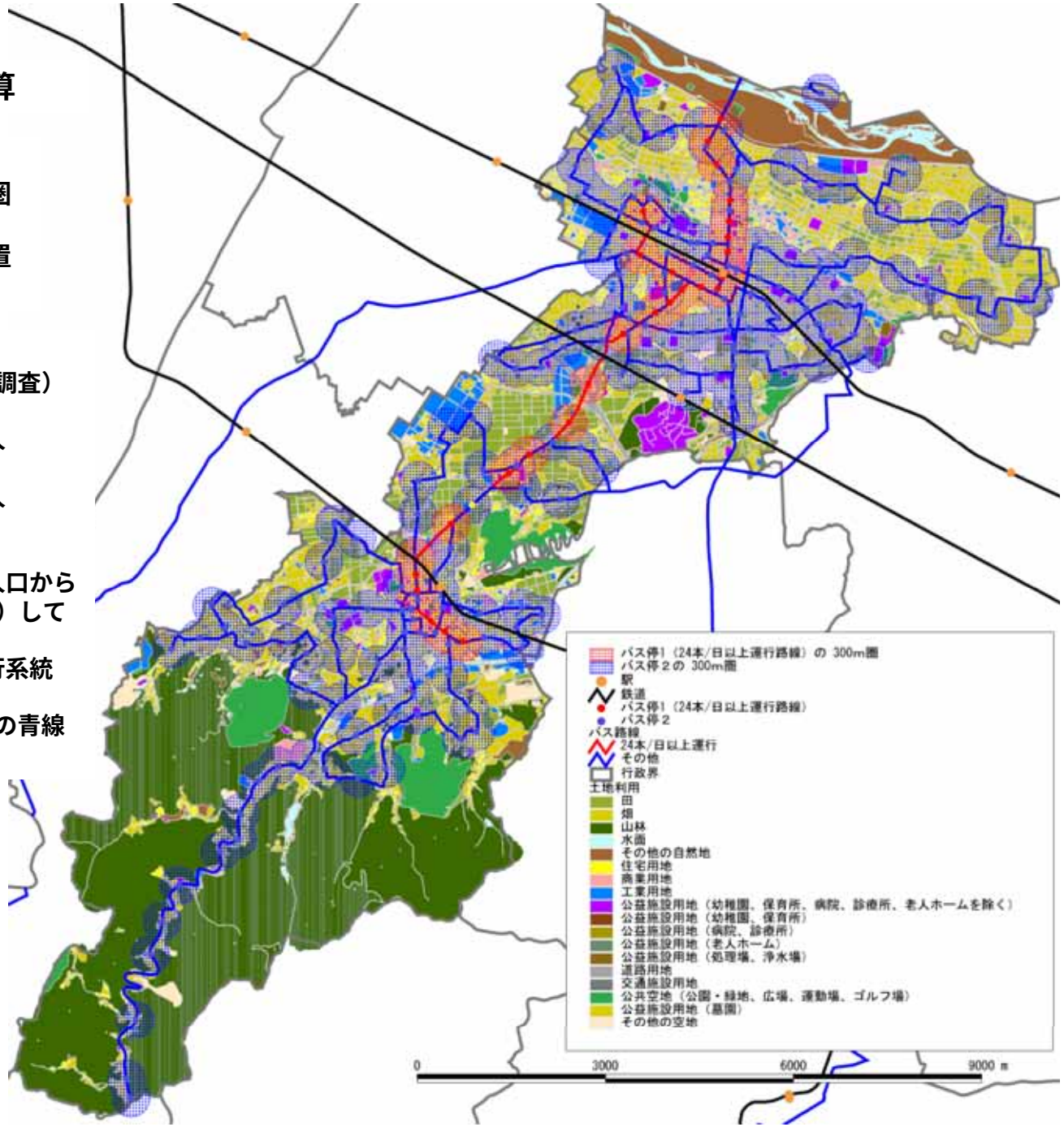


図　現行バス路線によるサービス圏域（半径300m圏）

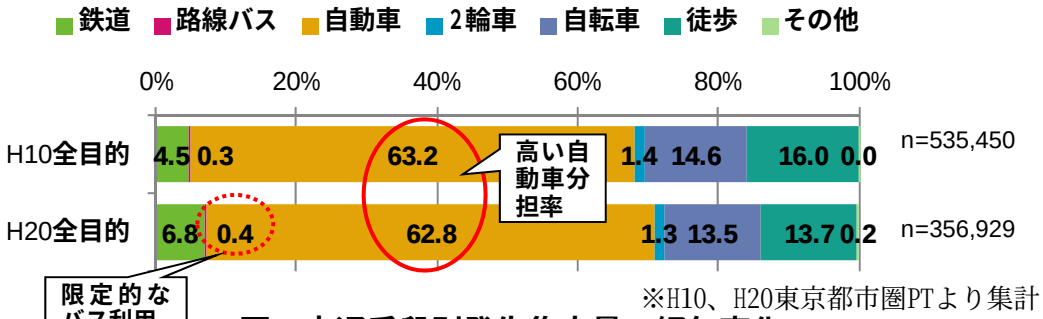
※土地利用は都市計画基礎調査（基準年度平成22年）

(2) 本庄市におけるパーソントリップ (移動実態)

1) 市域内における移動の概況

①交通手段構成比の経年変化

- 本庄市を発着するトリップ総量のうち６割以上を自動車が担っており、バスは0.4%（H20年）と限定的。
- 平成10年から平成20年の比較において、経年的に大きな変化は見られない。

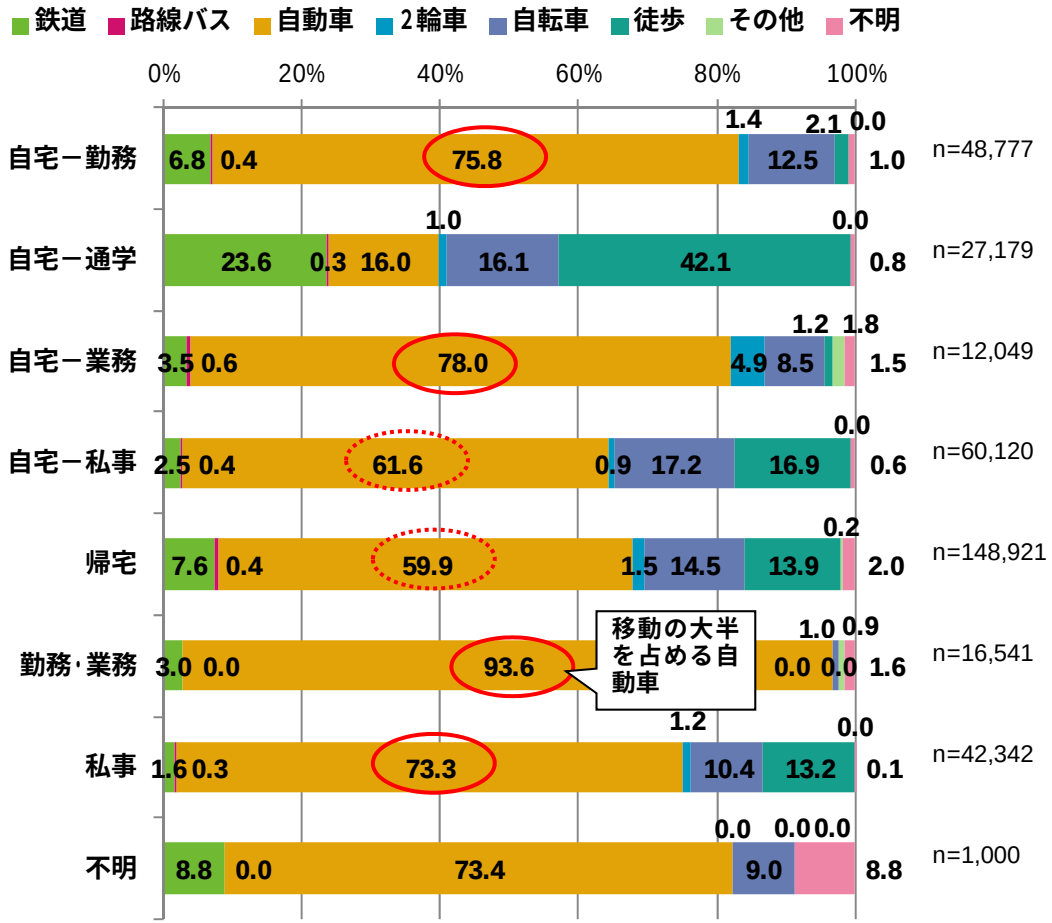


※H10、H20東京都市圏PTより集計

図　交通手段別発生集中量の経年変化

②目的別の交通手段

- ほぼ全て（通学以外）の目的で自動車分担率が５割を超えている。
- 特に通勤や業務、私事目的では７割以上が自動車移動で行われている。



※H20東京都市圏PTより集計

図　目的別／交通手段別発生集中量

【東京都市圏PT（パーソントリップ）とは】
　PT調査は、「どのような人が」「どのような目的で・交通手段で」「どこからどこへ」移動したかなどを調べるもの。そこから、鉄道や自動車、徒歩といった各交通手段の利用割合や交通量などを求めることができる。調査対象区域は東京都市圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県南部）。

【属性別集計：年齢階層による集計】

- 交通手段を年齢階層別に集計した場合、65歳以上の階層において特に自動車分担率が高い。
- また、65歳以上では自転車や徒歩の分担率も高い傾向にある。

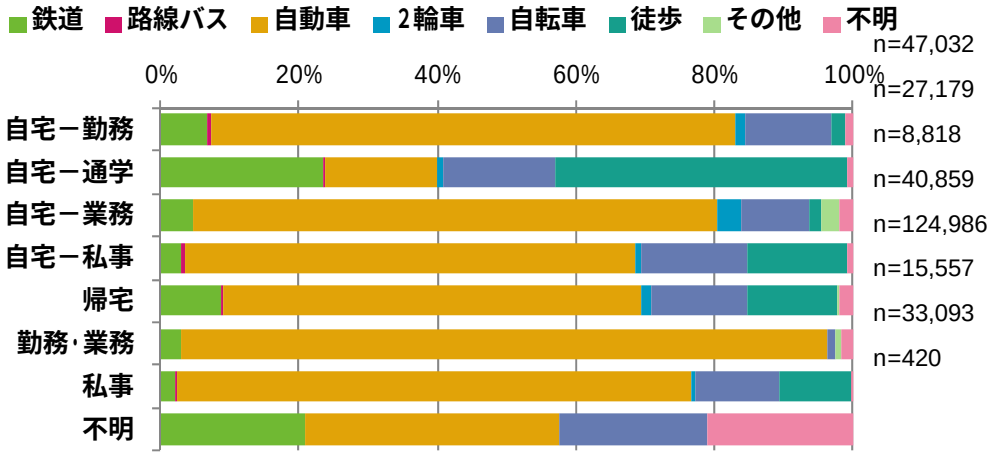


図　目的別／交通手段別発生集中量（65歳未満）

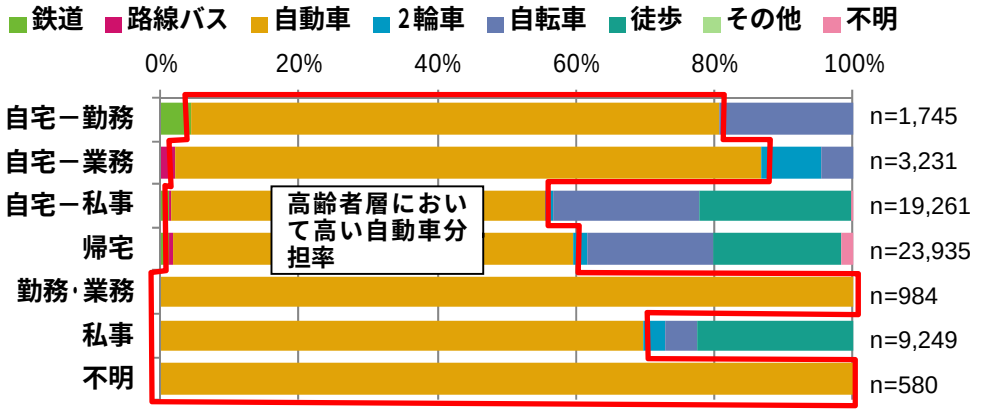
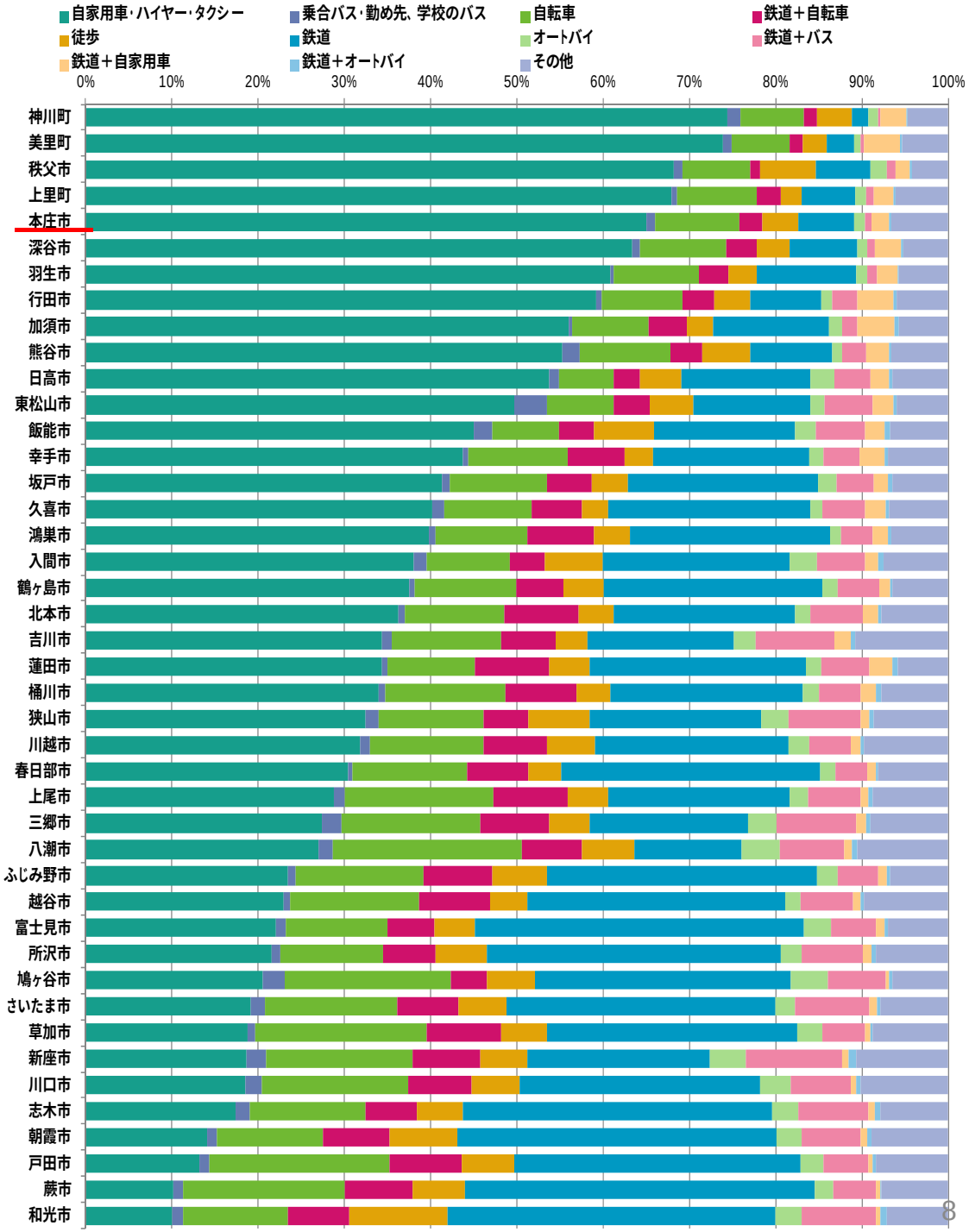


図　目的別／交通手段別発生集中量（65歳以上）

③埼玉県内他都市との比較による自動車依存の状況

- 本庄市の自動車分担率が占める割合は埼玉県内において上位に位置し、高い自動車への依存がみられる。



※平成22年国勢調査　従業地・通学地集計
　常住地又は従業地・通学地による利用交通手段(16区分)別15歳以上自宅外就業者・通学者数
※集計対象都市は県内全市および本庄市に隣接する「美里町」「上里町」「神川町」

図　通勤通学時の交通手段
（常住地による15歳以上自宅外就業者・通学者数）

2) ゾーン間移動の実態

①ゾーン別の交通手段特性

- ゾーン別の経年変化として、38103ゾーン（本庄駅北東エリア）および38104ゾーン（児玉エリア）において、自動車分担率の増加が顕著にみられる。

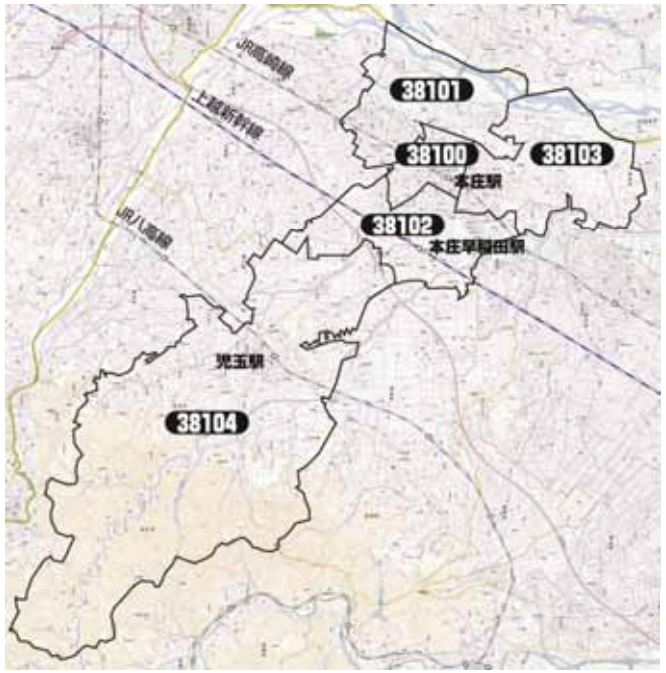
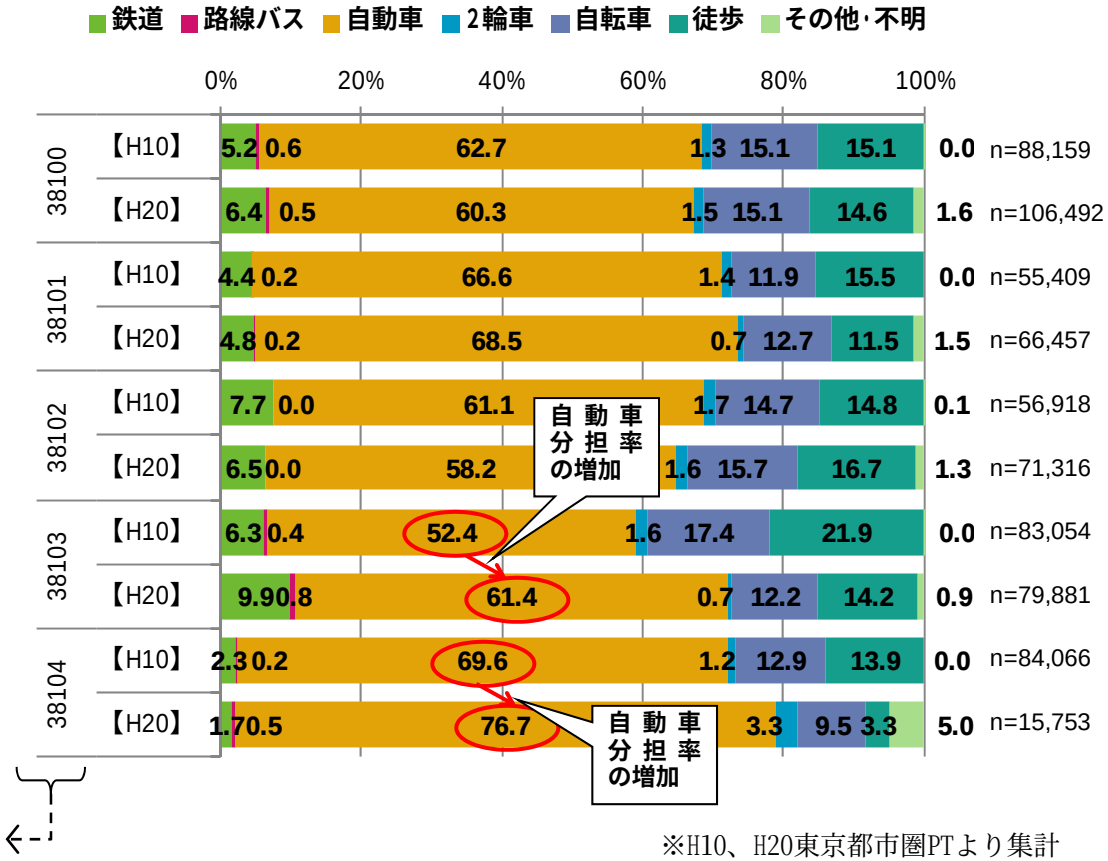


図　集計ゾーン区分（H20東京都市圏PT小ゾーン）



※H10、H20東京都市圏PTより集計

図　ゾーン別／交通手段別発生集中量の経年変化

②ゾーン間移動

- 本庄市を発着するトリップ（移動）について他自治体間で見た場合、隣接する「上里町・神川町」間の移動が多い。
- 市域内におけるゾーン間の移動実態として、旧本庄市域を中心とした移動が多い。
- 移動の大半を自動車が占めており、ゾーン内々や隣接ゾーン間の比較的短距離移動においても自動車が用いられている。（P11,12参照）

※H20東京都市圏PTより集計（市域外のトリップを除く）
※区分不明を除く集計

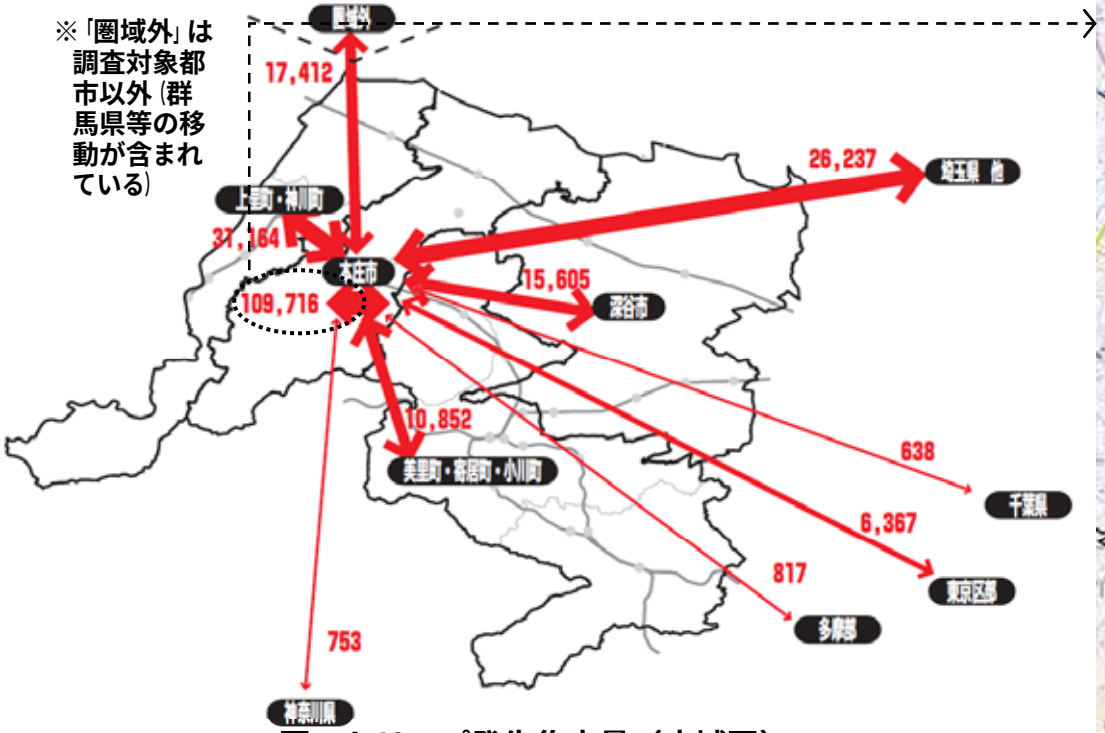


図　トリップ発生集中量（広域圏）

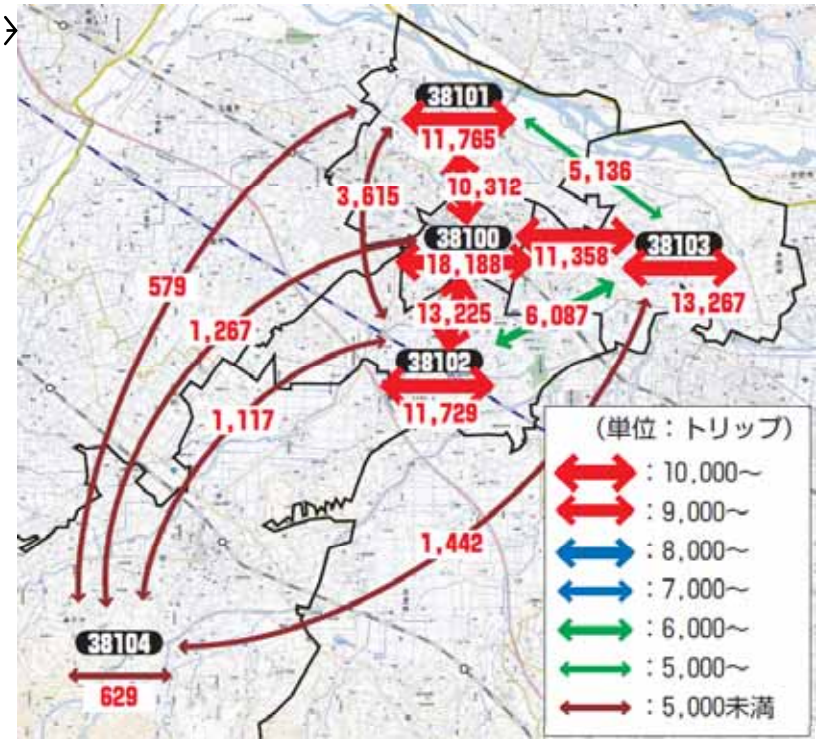
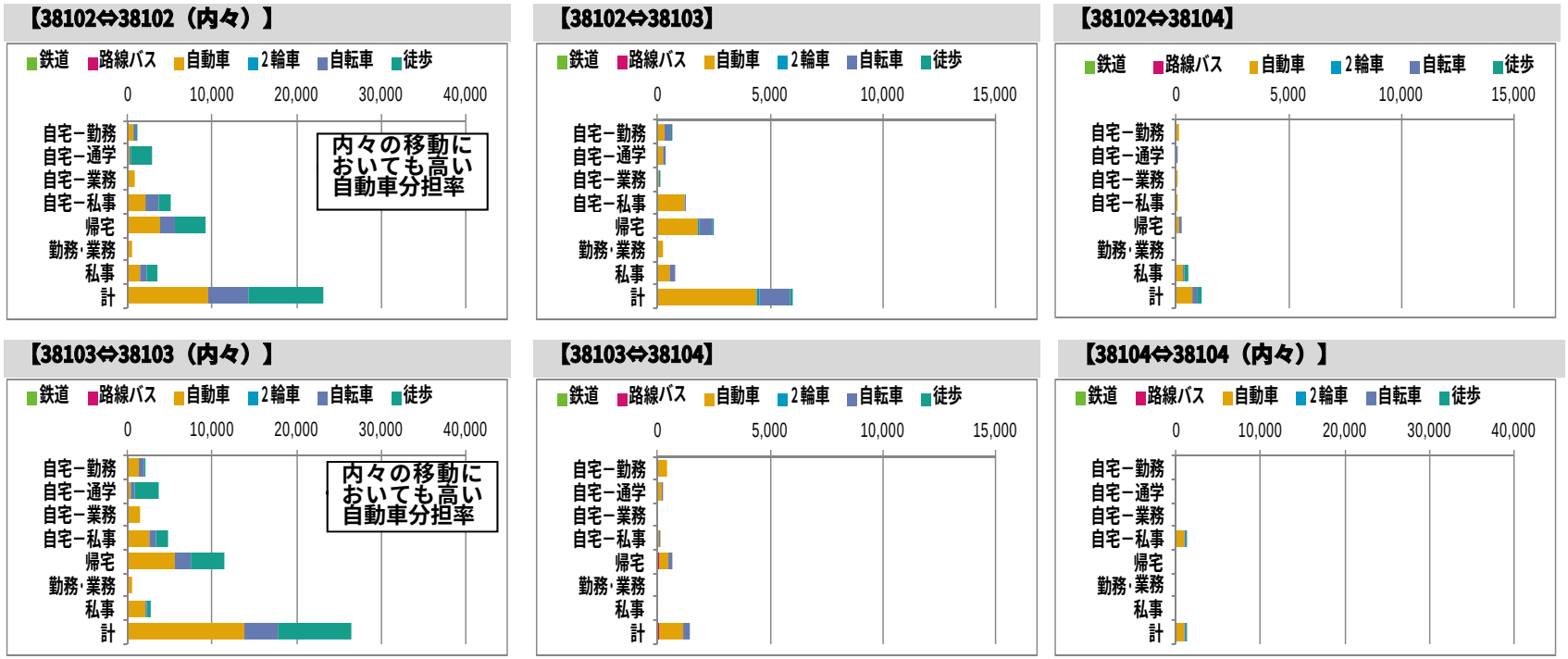


図　トリップ発生集中量（本庄市域内）

※H20東京都市圏PTより集計（市域外のトリップを除く）
※交通手段の「その他・不明」、目的の「不明」を除く集計

図　目的別／交通手段別発生集中量（本庄市域内）



※H20東京都市圏PTより集計（市域外のトリップを除く）
※交通手段の「その他・不明」、目的の「不明」を除く集計

図　目的別／交通手段別発生集中量（本庄市域内）

③自転車利用実態

- 自転車利用による市域内の移動として、38100（本庄駅周辺エリア）を中心とした利用が多い。
- 自転車の利用目的として「自宅-私事」目的が多く、年齢階層別にみると65歳以上でこの傾向が顕著にみられる。

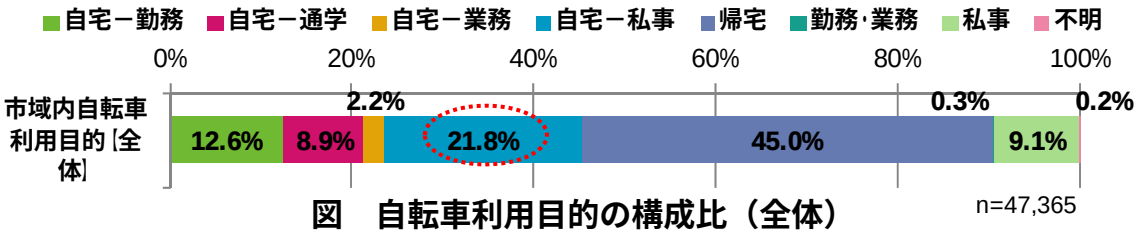
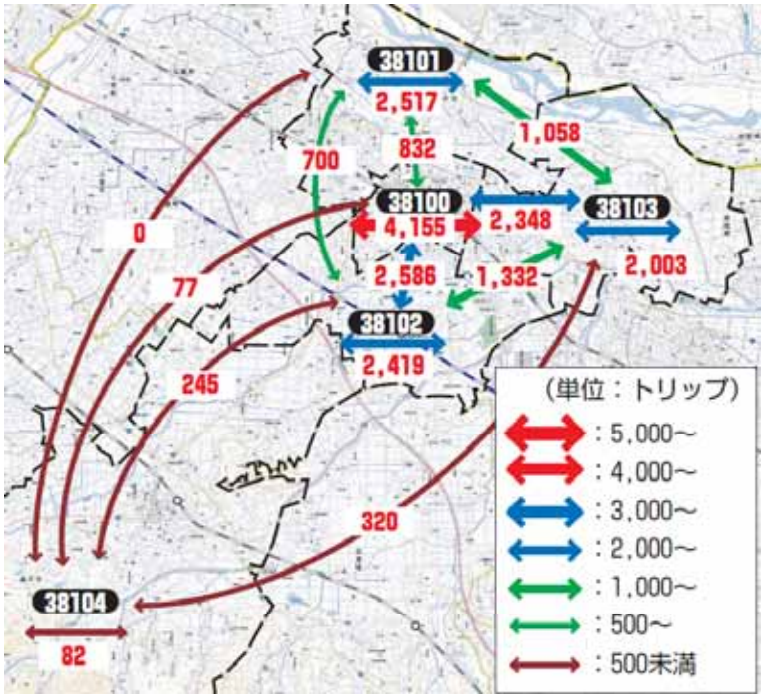


図　自転車利用目的の構成比（全体）



※H20東京都市圏PTより集計

図　自転車利用のゾーン間OD

【属性別集計：年齢階層による集計】

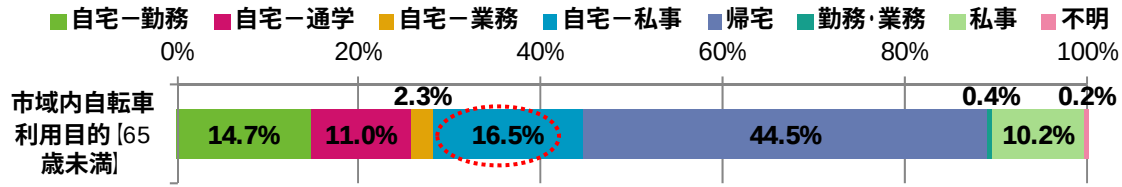


図　自転車利用目的の構成比（65歳未満）

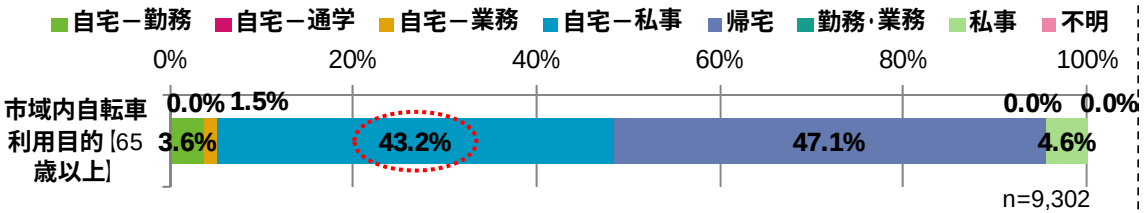


図　自転車利用目的の構成比（65歳以上）

④目的別の移動実態

- **移動の目的別にみた場合、ゾーン内々や隣接するゾーン間の移動が多く、市域内で長距離を移動するニーズは比較的少ない。**

※H20東京都市圏PTより集計（市域外のトリップを除く）
※上位10件のトリップを図示

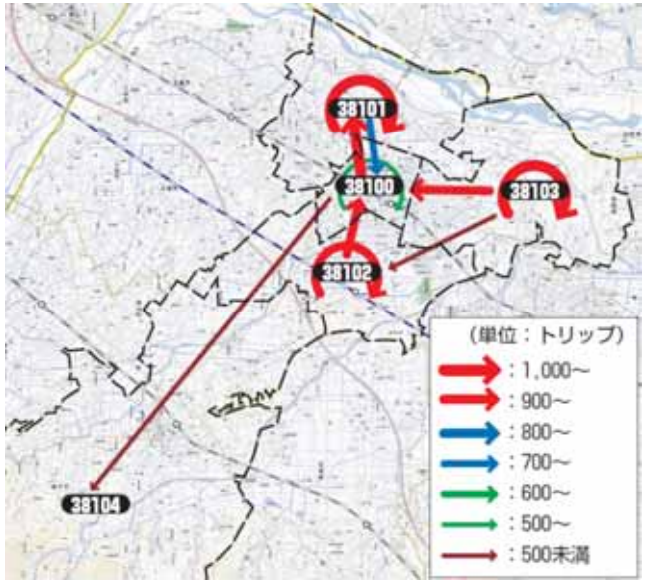


図　OD図（自宅-勤務）

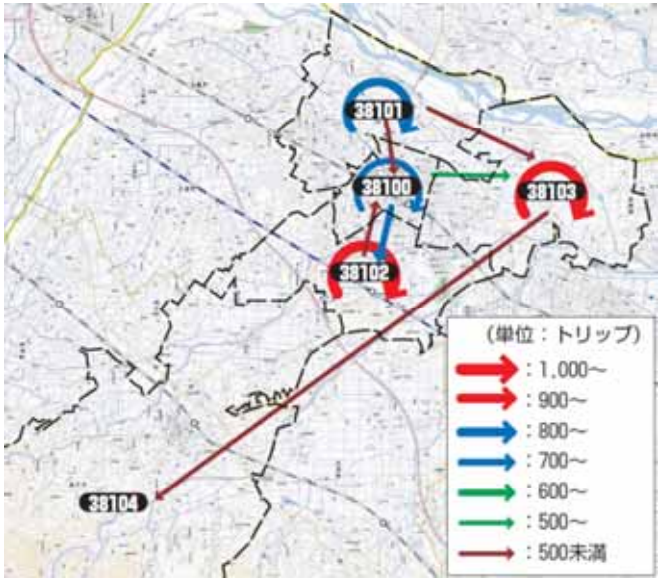


図　OD図（自宅-通学）

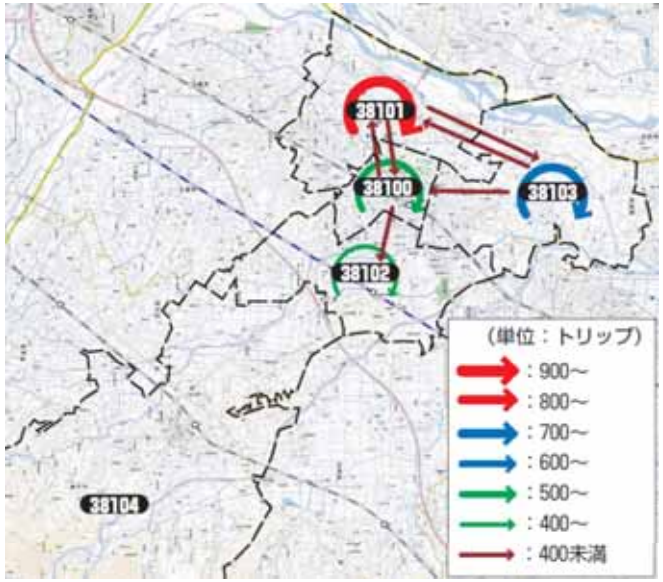


図　OD図（自宅-業務）

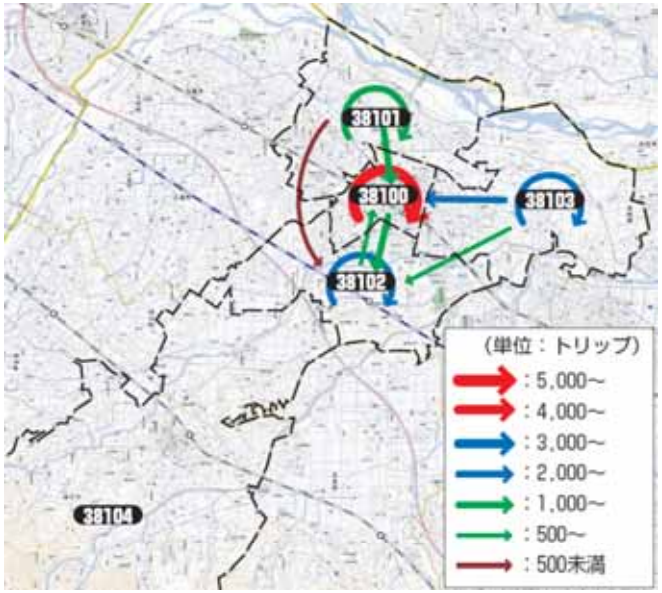


図　OD図（自宅-私事）

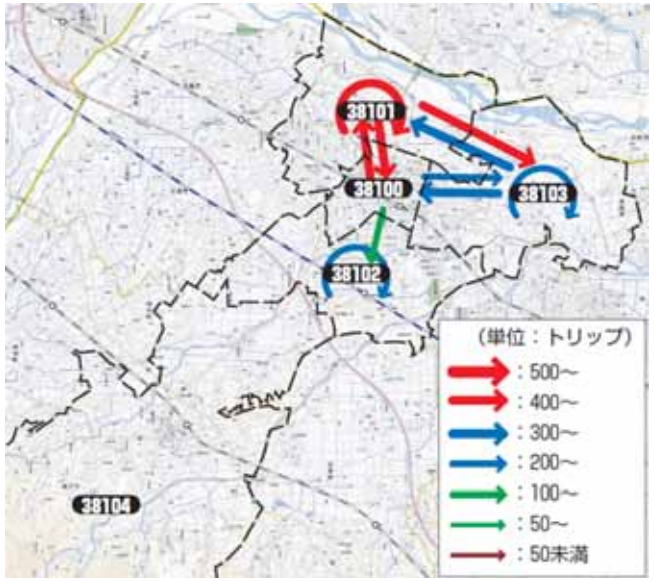


図　OD図（勤務・業務）

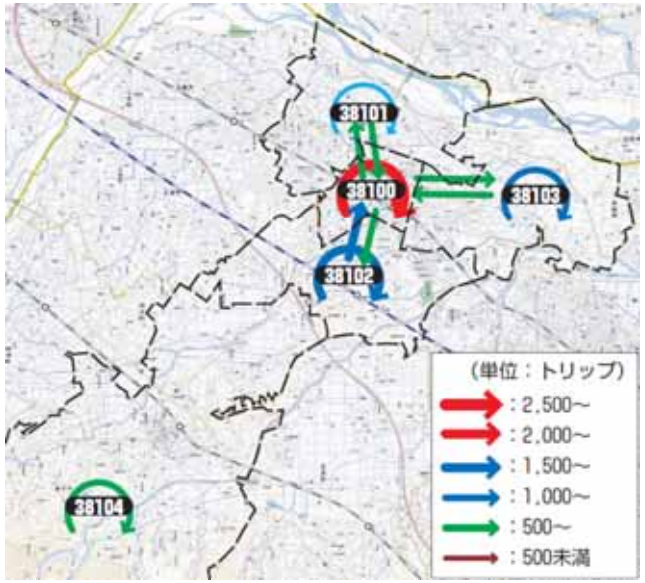
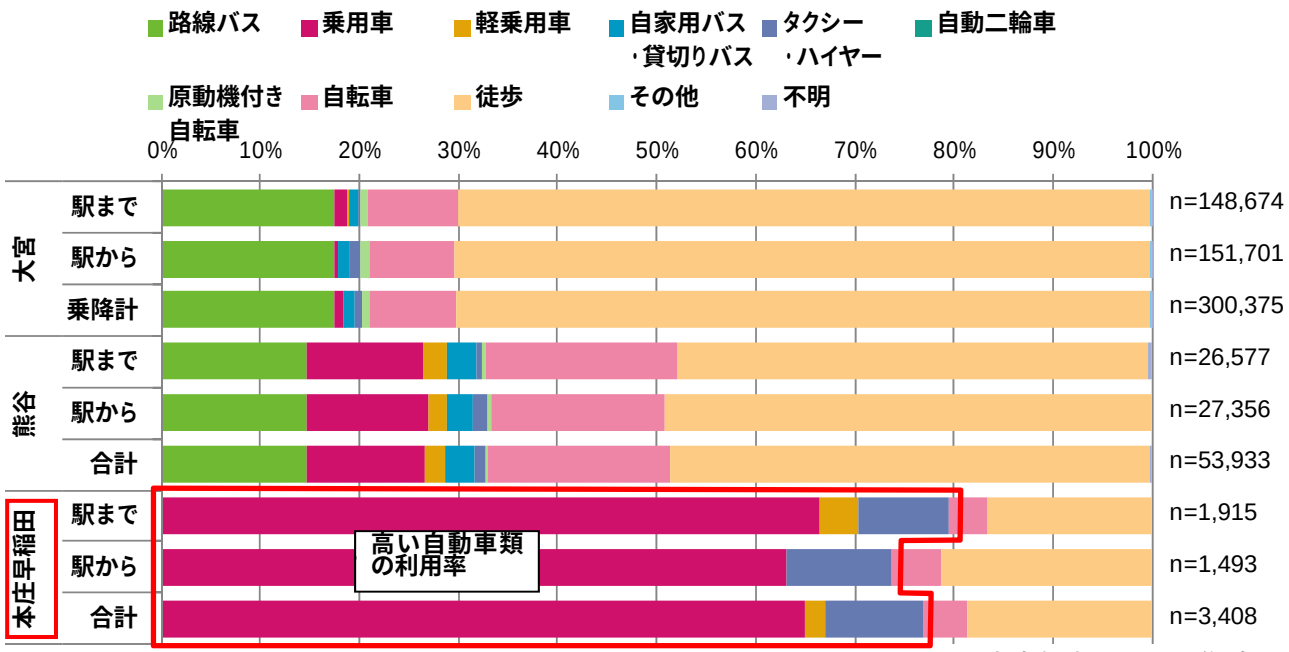


図　OD図（その他私事）

3）駅端末交通手段の状況

- 本庄早稲田駅を乗降する利用者の約８割が自動車等を端末交通手段として利用している。
- 本庄早稲田駅の定期利用者の居住地・勤務地は市内に限らず、周辺地域からの利用がみられる。



※H20東京都市圏PTより集計

図　鉄道駅別端末交通手段（上越新幹線）

※グラフ中「駅まで」は、対象駅に向かう移動で利用した交通手段を集計。
※グラフ中「駅から」は、対象駅を降車後に目的地まで利用した交通手段を集計

図　本庄早稲田駅の居住・勤務地別利用者数（定期）

※第１１回大都市交通センサス（H22年調査）より集計

【大都市交通センサスとは】
首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏において、鉄道、バス等の大量公共輸送機関の利用実態を調査し、各都市圏における旅客流動量や鉄道、バス等の利用状況（利用経路、乗換え関係、端末交通手段、利用時間帯分布等）、乗換え施設の実態（鉄道駅の乗換え、バス･鉄道の乗換え）をとりまとめたもの。

➢ 本庄駅を乗降する利用者の６割以上が自転車と徒歩を利用している。

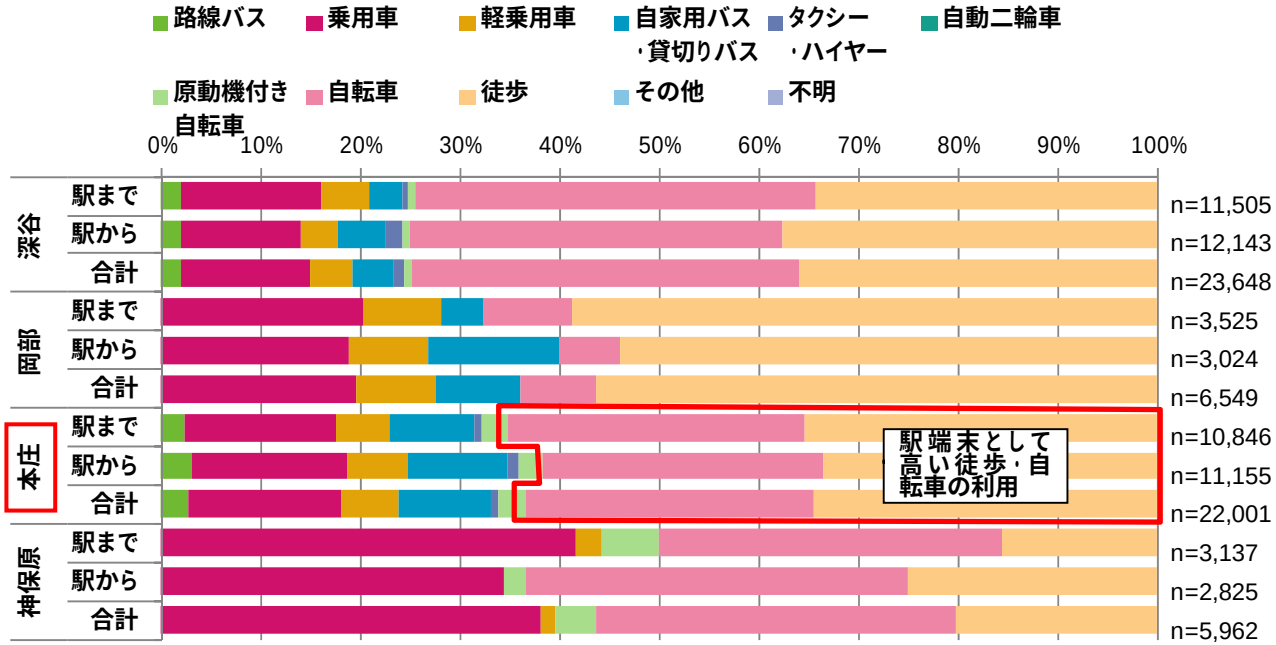
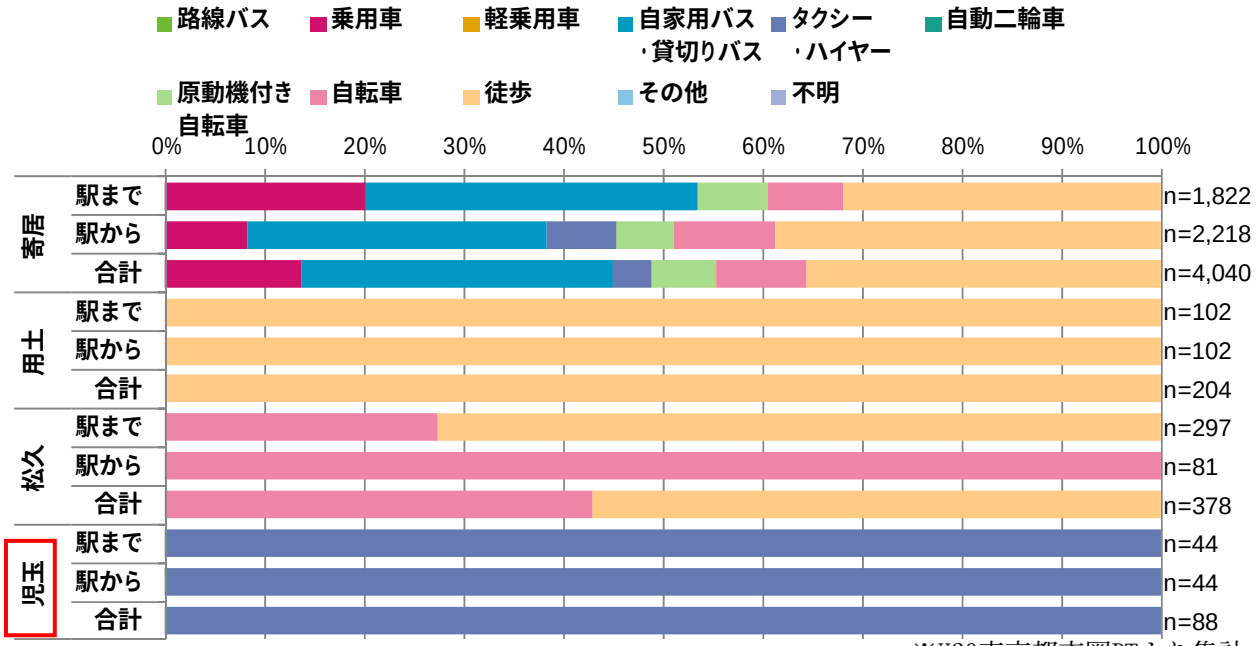


図　鉄道駅別端末交通手段（JR高崎線）



※H20東京都市圏PTより集計

図　鉄道駅別端末交通手段（JR八高線）